

令和7年2月臨時会

令和7年2月12日

市長説明要旨

【日程第3】

今臨時会におきましては、補正予算案など2件について御審議をお願いするものでありますが、提案理由の説明に先立ち、諸般の報告を申し上げます。

まず、漁業の状況について申し上げます。

秋田県漁業協同組合によりますと、令和6年1月から12月までの本市の漁獲量は2,708トン、漁獲金額は10億7,000万円で、昨年と比較して683トン、1億8,000万円の減少となっております。

これらの主な要因は、昨年5月の暴風や7月の流木等により大型定置網が度重なる被害を受けたほか、近年の海洋環境の変化等により、本市の主要魚種であるマダイやサケ等の漁獲量が軒並み大幅に減少したことによるものと考えております。

特に、ハタハタの漁獲量は、沿岸・沖合合わせて5.7トンと、平成7年の禁漁明け以降最低であった前年度の1割にとどまるという歴史的な不漁で、ハタハタ漁の持続可能性はもとより、「しょっつる」や「ハタハタ寿司」等の水産加工事業者の経営や後世への食文化の継承など、様々な面で今後の影響を危惧しております。

こうした主力魚種の漁獲量の減少や長引く燃油・資材の高騰など、漁業・水産業を取り巻く大変厳しい現状を踏まえ、先月15日には産業建設委員会から市当局に対し、「漁業不漁に対する支援策の緊急要望」があったところであり、市としても重く受け止めております。

このため、まずは漁業者の経営継続を下支えする観点から、操業に必要な燃油や資機材等の高騰分に

対して緊急的に助成することとし、今臨時会の補正予算案に関連経費を計上したところであります。

また、早期の資源回復が見通せない中で、アマダイなど暖水系の魚種や漁法への転換支援を継続するほか、アワビ、クルマエビ等の種苗放流の拡大、民間企業による陸上養殖事業や漁業者グループの海面養殖の実証事業などの取組を積極的に後押ししてまいります。

次に、「能代市、三種町及び男鹿市沖」における洋上風力発電事業計画の再検討について申し上げます。

当該海域における洋上風力発電事業については、国が実施した公募により、令和3年12月、三菱商事を中心とする事業者が発電事業者に選定され、現在、環境アセスメントなど、事業の実施に向けた取組が進められております。

こうした中、去る2月3日、発電事業者より、新型コロナ禍やウクライナ危機に端を発した世界的なインフレ、近年の急激な円安など、当初の想定を上回る事業環境の変化に伴い、事業性の再評価を進めているとの公表がありました。

2月5日には、発電事業者が本市を訪れ、公表内容の説明とともに、事業に関する抜本的な見直しを早期に終え、結果を踏まえ、より良い形で事業を実施できるよう努力する旨の説明があったところであります。

予見し難いウクライナ危機が事業者の決定後に勃発し、それに端を発して社会経済情勢が世界的に大きく変化したことは事実であります。本事業が数十年に及ぶ長期プロジェクトであることを踏まえます

と、事業計画の再検討も一定程度やむを得ないものと受け止めております。

しかしながら、洋上風力発電事業は、2050年カーボンニュートラルの実現に向け国家プロジェクトで進められており、とりわけ本事業は、国内での先駆けとなる重要案件であります。また、関連事業への地元企業の参入や関係者の往来に伴う宿泊需要の増大など、地域経済への波及効果も大きく期待されており、今回の見直しには、戸惑いを禁じ得ません。

市としましては、事業環境の変化を計画に的確に織り込みながら、確実に事業を実施していただきたいと考えており、今後の動向を注視し、県などの関係機関と連携しながら情報収集に努めてまいります。

次に、本市の社会教育活動、学校教育活動における「文部科学大臣表彰」受賞について申し上げます。

この度、椿コミュニティセンターが、優れた社会教育活動を実践している施設に贈られる第77回「優良公民館表彰」を受賞しました。

当センターは、地区の住民が孤立することなく、人とのつながりに喜びを感じられる集いの場をつくることを活動の柱として、地域づくりの取組を進めています。地域に出向いた交流会の開催、常設のスマートフォン相談窓口の開設、健康づくりと交流機会を創出するスポーツ大会の開催、男鹿南中学校や秋田大学と連携した活動などが評価され、この度の受賞となりました。表彰式は、2月28日に文部科学省にて執り行われます。

また、男鹿南中学校が、地域課題の解決を目指した取組や地元企業と連携した活動など、令和5年度から2年間にわたるキャリア教育「男鹿南ぐるおがる」の活動が評価され、この度、「キャリア教育優

良学校」として表彰されました。

このほか、男鹿海洋高校では、地域と連携した教育活動の実践を通して地域社会の発展に貢献しているとして、教職員一同が「優秀教職員表彰」を受賞されました。

同校は、洋上風力関連の訓練センターの開設に係る産学官連携プロジェクトの展開や、本市と連携した「地域みらい留学」の取組、市内で開催されるイベントでの販売協力や製品開発など、地域や企業と連携した特色ある教育活動を実践しており、今後も地域社会に貢献できる人材の育成が期待されます。

3件の大臣表彰を機に、市としましては、地域の皆様や教育関係機関との連携をさらに強化し、地域活性化に向け取り組んでまいります。

次に、なまはげ柴灯まつりについてであります。

先日開催されたなまはげ柴灯まつりでは、北浦真山の本会場に、3日間で約4,800人の来場がありました。昨年は、最終日の翌日が休日となる3連休だったことや、今回の期間中、寒波による全国的な降雪によって交通機関が乱れたことが影響し、昨年より200人ほど少ない来場者数となりましたが、サテライト会場の男鹿駅周辺広場を含め、多くの観光客で賑わいました。

また、外国人旅行者が急増しており、本市が重点市場と位置付けている台湾などアジア圏のほか、アメリカ、フランス、オーストラリアといった多様な国から訪れております。

欧米からの旅行者は、歴史・伝統文化やその土地ならではの体験への関心が高いと言われており、荘厳な雰囲気の中、実際のなまはげの迫力を間近で感じることができ、古くから行われている民俗行事や

神事の再現も行われ、「なまはげ文化」を凝縮して体験できる柴灯まつりが、そうした旅行者の心を捉えたものと考えております。

改めて、開催に協力いただいた真山地区の皆様はじめ、協賛いただいた企業や町内会など、関係各位に対しまして感謝を申し上げます。

「なまはげ文化」は、日本古来の家族愛・地域愛といった世界に誇る道徳であるほか、観光誘客においても核になるものであります。今後も行事・文化の保存伝承に努めながら、「なまはげ文化」を五感で体感できる観光地男鹿の魅力を広く情報発信してまいります。

以上で諸般の報告を終わり、次に提案理由の御説明を申し上げます。

まず、予算案ではありますが、議案第1号の一般会計補正予算は、国の総合経済対策の一環として交付される地方創生臨時交付金を活用し、物価高騰の影響を受けている生活者や事業者を支援するための経費を措置したもので、歳入歳出それぞれ1億6,612万9,000円を追加し、補正後の予算総額を188億3,332万9,000円とするものであります。

次に、報告ではありますが、報告第1号は、男鹿南中学校校地内と市道境界に設置されている側溝グレーチングが、車両通行時に跳ね上がり車両前方バンパーに接触して一部が破損した事故に伴う和解及び損害賠償額の決定について専決処分をしたものであります。

以上、提案理由について御説明を申し上げます。よろしく御審議の上、御可決賜りますようお願い申し上げます。